

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成21年 3月 第97号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

介護人財の養成に向けて

現在、特養入所者の平均の要介護度は4前後で、制度的にも重度の要介護者しか入所できない方向になってきています。お年寄りの笑顔や『ありがとう』の言葉が仕事のやりがい、と言う介護職が沢山いますが、現在の特養では、笑顔も言葉も出せず、呼びかけに反応も出来ない人に、人生を締め括る最期の瞬間も挟んで、介護は続きます。

しかし、介護保険制度は予防重視で、国が主導する『認知症介護研修』と『ユニットケア研修』でも、重度化した人が元気を取り戻した『成功体験』を教えて、看取りの介護には触れません。

高齢者は、加齢に伴い様々な心身機能が徐々に低下し、医療ニーズが増えて行きます。しかし、医療で以ってしても根本的な解決には至らず、遠からず、そして例外なく、最期を迎えるという現実の中に身を置きます。

高齢者に関与する医療・看護・介護は、この現実に向き合い、現実を受入れた上で、夫々の役割を自覚し、連携して最期まで寄り添います。

予防の時期から看取りの時まで、その人の、その状況に応じて、対処の仕方は一律ではありませんが、無原則でもありません。生と死を貫く普遍的な価値観が基本に流れているはずで

病気が治らないと判った時、治そうとする努力と、治らない事を受容する途と、2つに分かれます。死が避けられないと判った時、避けようとする努力と、死を受入れる準備をする途と、2つに分かれます。

介護現場では今、治らない病気に対して治そうとする努力を最優先し、避けられない死に対して避けようとする努力を最優先する現実の中で、現場が疲弊し介護職が疲労しています。

(次ページにつづく)

せいりょう園 渋谷 哲



(前ページのつづき)

高齢者に共通する普遍的な課題は、最終的には病気は治らず、死を意識しながら病気と共存して生きる中で、生きる価値を見出し、生きる意欲を持ち続ける事です。其処には、老いと死を受容すること、即ち、諦めることから始まる、人間のみが持つ精神的な営みがあります。思想や宗教・芸術といった、遺伝子では伝わらない大切な事を伝える、尊い営みです。

『ユニットケア研修』と『認知症介護研修』を受講し、『認知症介護研修』で講師を務めた経験から、介護に従事する人財を養成する際の課題を提起したいと思います。

1 看取り介護と死後の処置についての研修が必要です

認知症の人は、一時的に改善が見られても、その後もっと悪化して、必ず最期を迎えます。予防の時期から最期の瞬間まで寄り添う介護職には、一時の改善を求めて努力を繰り返しながらも、最期に寄り添う時に必要な技術と理念の研修がより以上に重要なのです。

2 受容を促し、不安を癒す力を内在させる為の技術と理念の習得が重要です

クリスティーン・ブライデンさんは、認知症初期の不安を自らが癒す力をキリスト教への信仰心に見出されています。健全な諦観を持ち、老いと死を受容し、心に生じる不安を適度に処理する力を内在させて貰う為の接遇技術と理念が非常に重要です。

3 受容し変身する要介護者の今の姿を素直に認識する観察力が重要です

障害を受容した人は、元気な頃とは違う感性・感覚・価値観で生きる人に変身します。そして老いは変身の連続です。元気な頃の情報は参考程度にして、今の姿から介護は出発し、今の感性や価値観での暮らしを支えます。変身後の感性・感覚・価値観は疑似体験できず、元気な介護者の想いから出発すると、大きな誤解に発展します。

映画『おくりびと』がアカデミー賞に輝きました。遺体を処置して棺に納める儀式が、家族の想いを深く左右する様子を描き、多くの観る人に感動を与えています。要介護高齢者の生活現場で介護職は、生きている人が死者となる過程に最もリアルに立ち会い、寄り添う立場にいます。人生の締め括りを左右する介護が、死後の処置であり、それが介護の仕上げです。人の最期を委ねるに相応しい介護職を養成する研修には、『看取り介護』と『死後の処置』を欠かせてはならないと考えます。

4月から『せいりょう園老人介護支援センター』となります

地域支援センターのぐち南
吉田 知一

この度、地域包括支援センターの再編により、中学校区にあった12ヶ所の地域支援センターは平成20年度で廃止となります。私の勤めている地域支援センターのぐち南もひとつの区切りを迎えます。

私が支援センターでこれまでに相談を受けて感じたことは、老いて介護が必要になり死んでいくことに、たくさんの方が悩み、葛藤しているということです。そして、たとえ本人が望んだとしても、本人の望む場所で最期を迎えるということが難しい世の中であると考えさせられました。今、本当に必要なのは、満足のいく看取り介護であると感じました。

家族の方からは、自宅での介護をどんな思いでしているかを教えていただき、本人からは、本人の思いがどういったものかを教えていただきました。たくさんのことを学ばせていただいたようにも思います。町内会長さん民生委員さんなど地域の方々との関わりでは、地域のことを教えていただき、見守りが必要な方に関しては、本人の住み慣れた場所で生活が出来るように話し合いの場にも参加していただきました。本当にありがとうございました。

地域支援センターは今年度で廃止となりますが、今後は、せいりょう園の一職員として、せいりょう園老人介護支援センターという名前で活動していきます。引き続き、このせいりょう園が介護の拠点となるように、地域に貢献できるようなソーシャルワーカーを目指し、一生懸命にがんばりたいと思います。

ケアハウス等空き情報 <平成21年 3月13日現在>

ケアハウス

・むれさき苑	: 1人部屋2室	・青山苑	: 1人部屋1室
・シスナブ御津	: 1人部屋1室	・アゼリア	: 1人部屋3室
・せいりょう園	: 1人部屋2室		: 2人部屋2室
・めぐみ苑	: 1人部屋1室		

バリアフリーマンション

リバティかこがわ 1室

[問合せ]せいりょう園介護相談室

(079)421-7156/(079)424-3433



今回の仏教講話は西神吉町にある浄土真宗本願寺派南宗寺の月嶋(つきしま)ご住職に来て頂いた。加古川市仏教会で毎月の仏教講話でお世話になっている光念寺ご住職から「お若い住職です」と伺っていたが、ご本人から冒頭に「私の第一印象はどうですか?」と聞かれた。「お若いです」と答える。「有難うございます。他には?」・・・。「お坊さんらしくない。

髪の毛が長いと言われた事がありますよ」、で講話は始まった。

月嶋住職は先ず問い掛けをされ、それから話を展開していく手法をとられた。「もうすぐ宗教上で最も大切な行事の一つがやって来ますが、何だか分りますか?」どこからか「お彼岸」の声。正解。彼岸の中日は太陽が真西に沈む日で、お経には西方浄土という言葉があるように、西のかなたに還っていかれたご先祖、故人をしのぶのにちょうどいい時期となったようです。季節的にも春、秋の気候の良い頃でお彼岸は日本独特の行事、考え方であるらしい。浄土は何処にある? 本来は仏さまのお慈悲は方向など関係なくどこからでも我々に間違いなくとどいているものである。ところが残念ながら目に見えない、つかめない、なかなか感じる事ができないものだけにより所として、その仏さまの働きを目に見える形に表したのがお仏像であり、お浄土は西の方にあるとした。しかし仏さまをきちっと仏さまとして見ていくことが大事であり、仏さまの教えをきちっと聞かせていただくことが必要である。仏さまの教えは我執にとらわれた我々の思いとは逆の場合が多いと説かれる。

ここから少し四苦八苦の四苦「生老病死: ヨウロウビシ」について話される。生きていく苦しみ、生命を授かったこと自体が苦しみの始まりであり、更に老いの苦しみ、病む苦しみ、そしてついには誰もどうしても避けられない死の苦しみ。人はいつ、亡くなって浄土の世界へ還っていくか分からないのだから、今を大切に貴重に感じて生きていくべきである。

ところで墓参りをしたときに墓前に供えるものが2つあったとした時、どちらをとるか? 一つは故人(仏さま)の好きな物。もう一つは自分(墓参者)の好きな物。

故人の好きだった物をお供えすることは勿論悪いことではない。尊いことではあるが、仏さまの気持ちとすれば墓参者の好きな物の方が仏さまの我々を照らして下さっているというお気持ちにふさわしいのではないのでしょうかと話される。例えば故人の好物だった「お酒」を供えても、仏さまが本当に喜ばれるか? ましてやお飲みになるか? ご先祖に感謝の気持ちを表すのが趣旨(本音)であるから自分の好きな物を自分が食する(味わう)前に仏さまにお供えする。その心が尊いことである。すると仏さまはそれを我々に返して下さる。お供えをして、お下がりを頂くことが仏さまの思い、心である。しかしそうすること - お下がりを頂くことで我々に大いなる責任が生じる。

仏さまのことを「覚者：かくしゃ：さとり」という言い方がある。本当のことに、まことに気付かれたことを意味する。私たちがきちっと仏さまのお考えを受け止め、理解し、受け継いでいくことが大事である。仏さまの教えを何か一つでも生活に取り入れていきたい。仏壇にお供えをして、お下がりをきちっと受けることも一つの大切な行為であり、それを続けることで教えを受け継いでいくことが可能となる。

仏教用語に「還相回向：げんそうえこう」という言葉があって、手を合わせた時、お念仏を唱えた時、仏さまはいつでも還って来て下さっていると説かれる。

「還相回向」：辞書を引くと「浄土に往生した後、この世に戻って共に往生すること。浄土真宗では、その能力も弥陀の力によるものとする。」とあった。

最後に詩人：金子みすずの詩を紹介された。

「さびしいとき」 金子みすず
わたしがさびしいときに、よその人は知らないの。
わたしがさびしいときに、お友だちはわらうの。
わたしがさびしいときに、お母さんはやさしいの。
わたしがさびしいときに、ほとけさまはさびしいの。

彼女は「いつでも仏さまはこの私とともにおられるんですよ」というように思われていたのでしょう。

注) 金子みすず

山口県大津郡仙崎村(今の長門市)に生まれる。大正末期から昭和初期にかけて、26歳の若さでこの世を去るまでに512編もの詩を綴ったとされる。

代表作に『鯨墓』、『わたしと小鳥とすずと』、『大漁』などがある。

認知症ケアと自彊術

還暦を過ぎた団塊の世代の加齢に伴い、高齢者の介護が、その中でも特に認知症の介護が、大きな課題として浮かび上がっています。そして、認知症の人を地域で支えるサポーターを、全国で100万人養成する講座が開かれ、認知症の人を地域で見守りながら、早期発見・早期治療につなげて、重度の認知症の人を少なくしよう、と呼びかけています。

アメリカのレーガン元大統領がアルツハイマー病だと判った時、ナンシー夫人は『スロー・グッバイ』と表現されました。ゆっくりではあるけれども確実に死に向かって歩む暮らしを覚悟した言葉として、強く印象に残っています。他の臓器と違って、脳には直接メスを入れて患部を切り取ることもできず、確実に訪れる最期を覚悟する事が、これからの安らかで有意義な暮らしの出発点になる事を見事に表現している、と感じました。

オーストラリアのクリスティーン・ブライデンさんは、認知症初期の『私は誰になっていくの?』という不安感を、自らのキリスト教への信仰心とその仲間や家族の助けで何とか乗り切ってきた様子を本に書き、世界各地で語られています。そしてアルツハイマー病の進行に連れて変化する自分の姿を、『私は私になっていく』と肯定しておられます。

認知症という病気の症状については、治療や改善の努力を続けながらも、一方では、在るがままの姿を肯定して開き直ることがもっと大切なように思います。ブライデンさんのキリスト教への信仰心のような『心の拠所』と、同じ拠所を共有する仲間や介護者への信頼感が、内なる不安を癒し、暮らしに生じる混乱を適度な処で収める原動力ではないか、と強く感じています。認知症の人の体内で、安心ホルモンの分泌を促進すると紹介されている『タクティールケア』が今、スウェーデンから導入され各地で講習会が開かれています。認知症の人に、心の内に安心感と信頼感を抱いてもらえるような介護を提供したいと願い、様々に工夫していきます。

その一つとして、現在グループホームでは、小麦粉粘土を使った『造形教室』を開いています。粘土をこねる感触、見本を模して造ろうとする作業と意欲、一緒に作業する仲間との語らい、それらが複合して心の中で積み重ねられて、安心感や信頼感に繋がっていくように感じています。

そしてこの4月から、自彊術の先生に指導を仰ぎながら、お年よりの手・足・背中・肩などに自彊術療法を応用した接遇法を研修します。自彊術は大正時代に日本人によって考案された、自分で自分を手当てる体操ですが、他者を手当てする療法が基になっています。日本人によって考案された体操や療法が、日本のお年よりの体質にも感覚にも合うのではないかと考え、自彊術の療法を介護の中に取り入れてみたいと思います。

介護現場発信情報

～かけがえのない^{ひととき}一刻を

ユニットへ異動になって11ヶ月

藤本 あや

ユニットでの調理担当として11ヶ月が過ぎました。最初はお年寄りにどう接したら良いのか分からず私の方が身構えてしまい、お年寄りとのコミュニケーションが上手く出来ずに毎日、料理を作る以上に精神的に疲れていたように思います。また、油断をしているとお茶碗・小鉢を掴んだり、熱い鍋をさわったり、トレーを指先を上手に使って引っ張ったり、手が届かないようにと注意をしてもマジックハンドのように手がググーと伸びてきます。「ダメですよ」と言うときさらにパワーアップします。「何これ」どうしたら良いのという感じで私の方がパニック状態です。お年寄りは何ごとも無かったかのように満足された様子です。私の生涯の中でお年寄りと一日、共に同じ時間を共有するのが初めてで苦手だなあと思っていた分野だったのですが、1ヶ月、2ヶ月と過ぎていくうちに自分の中で変化が起きているような気がしていました。今までは120%、介護的な部分は私には無理だと思っていましたが・・・。

若い職員が忙しい業務の中でも笑顔でお年寄りと接している姿を見ていると誇らしく思えて、その場に一員として参加出来ていることを嬉しく思います。また、ユニットでお年寄りと接しているうちに介護の分野にもいろいろな形があることを知りました。

そして今は自分に出来ることから参加していけたらと思えました。料理を提供することしか出来ませんが、料理を通してお年寄りと楽しい時間が共有出来たら良いなあと思っています。

せいのう園 3月の行事

- 3月 3日(火) ひな祭り
(バラ寿司・ひなあられ)
- 3月 4日(水) 日岡保育園との交流会
誕生会
- 3月 7日(土) 園長との懇談
- 3月 9日(月) 仏教講話(浄土真宗本願寺派南宗寺)
- 3月11日(水) 音楽療法
お話グループ・福寿草の会
- 3月12日(木) 昼食会(すき焼き)
- 3月13日(金) ひより手芸教室



ユニット一丁目でのひな祭り



- 3月16日(月) 美容の日
- 3月18日(水) 音楽療法
- 3月20日(金) 春分の日(おはぎ)
彼岸の法要
- 3月23日(月) 理容の日
- 3月25日(水) 消防訓練
音楽療法
郷土料理(鶏飯)
- 3月27日(金) ひより手芸教室
介護者の集い

3月4日 日岡保育園園児と

平成20年度第4回グループホーム運営推進会議の報告

日時 平成21年3月7日(土) 14:00～16:00
場所 せいりょう園 1Fホール
参加者 運営推進委員:9名 入居者家族:4名 職員:1名

議 題

1. 行事報告

- ・介護者の集い ・コンサート ・クリスマス会 ・初詣
- ・2市2町グループホーム協会勉強会 ・非常食の日
- ・実習生受け入れ実績

2. ADL研修報告(グループホーム入居者 春名美千子さん)

3. 苦情調整委員会より、ご意見箱に投函のあった意見の報告

H20年12月～H21年2月までの『ひやりはっと』と事故の報告

4. 新事業小規模多機能ホームの概要説明(利用のしおり配布)

運営推進会議について

- ・新年度よりグループホームと合同で開催する。委員1～2名選出予定

5. 平成21年度委員交代について

- ・家族代表のみの交代とする

グループホーム : 上田氏 に依頼。了解済

グループホームまどか: 栗岡氏 に依頼。了解済

6. 意見交換

第96号機関誌をもとに

- ・日常生活の中の生理現象の部分(摂食、排泄行為等)が出来なくなることが老いである。
- ・欧米人に比べて日本人は身内や他人になるべく迷惑をかけたくないと思う人が多い。
- ・自分で努力しても出来なくなった時、他の人に委ねることを迷惑だと捉えない方が良い。
- ・国民性、文化の違いがあり、長い年月の中で培われたものなので仕方がないことなのでは。
- ・機能低下、障害等で出来ない事が多くなっていく自分を受容していく事が大事。
- ・欧米人が自身の抛り所をキリストに委ねるように日本人も頼れる何かを持つ事が大事なのでは。